

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2023年2月2日

【四半期会計期間】 第203期第3四半期(自 2022年10月1日 至 2022年12月31日)

【会社名】 住友ファーマ株式会社

【英訳名】 Sumitomo Pharma Co., Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 野村 博

【本店の所在の場所】 大阪市中央区道修町二丁目6番8号

【電話番号】 06-6203-5708

【事務連絡者氏名】 経理部長 加島久宜

【最寄りの連絡場所】 大阪市中央区道修町二丁目6番8号

【電話番号】 06-6203-5708

【事務連絡者氏名】 経理部長 加島久宜

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第202期 第3四半期 連結累計期間	第203期 第3四半期 連結累計期間	第202期
会計期間		自 2021年4月1日 至 2021年12月31日	自 2022年4月1日 至 2022年12月31日	自 2021年4月1日 至 2022年3月31日
売上収益 (第3四半期連結会計期間)	(百万円)	432,072 (138,342)	460,265 (140,976)	560,035
税引前四半期(当期)利益	(百万円)	65,583	2,192	82,961
親会社の所有者に帰属する 四半期(当期)利益(△は損失) (第3四半期連結会計期間)	(百万円)	46,359 (9,909)	△18,502 (△11,219)	56,413
親会社の所有者に帰属する 四半期(当期)包括利益	(百万円)	31,508	37,045	37,574
親会社の所有者に帰属する持分	(百万円)	600,786	635,149	607,888
資産合計	(百万円)	1,295,913	1,371,517	1,308,007
基本的1株当たり 四半期(当期)利益(△は損失) (第3四半期連結会計期間)	(円)	116.69 (24.94)	△46.57 (△28.24)	141.99
希薄化後1株当たり 四半期(当期)利益	(円)	—	—	—
親会社所有者帰属持分比率	(%)	46.4	46.3	46.5
営業活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	9,061	56,531	31,239
投資活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	7,259	21,687	△18,278
財務活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	△20,395	△33,017	△21,426
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(百万円)	196,340	265,773	202,984

- (注) 1 当社は要約四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
- 2 希薄化後1株当たり四半期(当期)利益については、潜在株式が逆希薄化効果を持つため記載しておりません。
- 3 百万円未満を四捨五入して記載しております。
- 4 上記指標は、国際会計基準(以下「IFRS」)により作成した要約四半期連結財務諸表および連結財務諸表に基づいております。

2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社および当社の関係会社が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、当第3四半期連結会計期間において、特定子会社であるUrovant Sciences Ltd.、Enzyvant Therapeutics Ltd.、及びAltavant Sciences Ltd.はSumitovant Biopharma Ltd.(以下「スミトバント社」)に合併されたことにより消滅しております。

2022年12月31日現在、当社グループは、当社、親会社、子会社48社および関連会社6社で構成されております。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の異常な変動等または、前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」について重要な変更はありません。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

当第3四半期連結累計期間における当社グループ（当社および子会社）の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フロー（以下「経営成績等」）の状況の概要並びに経営者の視点による当社グループの経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容は次のとおりであります。

また、文中における将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 経営成績

（業績管理指標「コア営業利益」について）

当社グループでは、IFRSの適用にあたり、会社の経常的な収益性を示す利益指標として、「コア営業利益」を設定し、これを当社独自の業績管理指標として採用しております。

「コア営業利益」は、営業利益から当社グループが定める非経常的な要因による損益（以下「非経常項目」）を除外したものとなります。非経常項目として除かれる主なものは、減損損失、事業構造改善費用、企業買収に係る条件付対価公正価値の変動額等です。

当第3四半期連結累計期間の当社グループの連結業績は、以下のとおりであります。

（単位：億円）

	前第3四半期連結累計期間 （自 2021年4月1日 至 2021年12月31日）	当第3四半期連結累計期間 （自 2022年4月1日 至 2022年12月31日）	増減	増減率 （%）
売上収益	4,321	4,603	282	6.5
コア営業利益	590	429	△160	△27.2
営業利益	582	△178	△760	—
税引前四半期利益	656	22	△634	△96.7
四半期利益	352	△326	△678	—
親会社の所有者に 帰属する四半期利益	464	△185	△649	—

■ 売上収益は4,603億円（前年同四半期比6.5%増）となりました。

日本セグメントは、市場浸透により売上が伸長している製品があるものの、薬価改定の影響等により減収となりました。一方、北米、中国、海外その他の各セグメントは、為替換算の影響や主力製品の売上拡大等により増収となりました。

■ コア営業利益は429億円（前年同四半期比27.2%減）となりました。

増収による売上総利益の増加に加え、慢性閉塞性肺疾患（COPD）治療剤「プロバナ」および喘息治療剤「ゾペネックスHFA」の販売権譲渡や優先審査パウチャーの売却等によるその他の収益の計上がありました。為替換算の影響等による販売費及び一般管理費や研究開発費の増加が大きく、コア営業利益は減益となりました。

■ 営業利益は△178億円（前年同四半期比760億円の減益）となりました。

第2四半期において、米国で販売中のパーキンソン病に伴うオフ症状治療剤「キンモビ」について、収益予測を見直した結果、本製品に係る特許権等を全額減損しました。これに係る減損損失560億円の計上により、営業利益は大幅な減益となりました。

■ 税引前四半期利益は22億円（前年同四半期比96.7%減）となりました。

為替差益の計上により、金融収益から金融費用を差し引いた金融損益は増益となりましたが、減損損失計上の影

響が大きく、税引前四半期利益は減益となりました。

■ **四半期利益は△326億円（前年同四半期比678億円の減益）となりました。**

税引前四半期利益が減益となったことにより、四半期利益についても減益となりました。

■ **親会社の所有者に帰属する四半期利益は△185億円（前年同四半期比649億円の減益）となりました。**

四半期利益の減益の影響が大きく、非支配持分に帰属する損失を控除した親会社の所有者に帰属する四半期利益も減益となりました。

（セグメント業績指標「コアセグメント利益」について）

セグメント別の業績では、各セグメントの経常的な収益性を示す利益指標として、「コアセグメント利益」を設定し、当社独自のセグメント業績指標として採用しております。

「コアセグメント利益」は、「コア営業利益」から、グローバルに管理しているため各セグメントに配分できない研究開発費、事業譲渡損益等を除外したセグメント別の利益となります。

セグメント別の経営成績は次のとおりであります。

<日本>

■ **売上収益は1,022億円（前年同四半期比12.8%減）となりました。**

非定型抗精神病薬「ラズダ」や2型糖尿病治療剤「ツイミーグ」等の売上は伸長しましたが、薬価改定の影響等により、減収となりました。

■ **コアセグメント利益は96億円（前年同四半期比43.4%減）となりました。**

減収による売上総利益の減少により、減益となりました。

<北米>

■ **売上収益は2,794億円（前年同四半期比11.4%増）となりました。**

前年同四半期においては、精神神経領域における大塚製薬株式会社との共同開発・販売提携に伴う契約一時金の収益計上がありました。当第3四半期においては、為替換算の影響に加え、進行性前立腺がん治療剤「オルゴビクス」、過活動膀胱治療剤「ジェムテサ」等のスミトバント社グループ製品の売上伸長により、増収となりました。

■ **コアセグメント利益は557億円（前年同四半期比39.1%減）となりました。**

スミトバント社グループの費用の増加や為替換算による販売費及び一般管理費の増加が、売上総利益の増加を上回り、減益となりました。

<中国>

■ **売上収益は312億円（前年同四半期比15.6%増）となりました。**

カルバペネム系抗生物質製剤「メロペン」等の製品は、為替換算の影響等により増収となりました。

■ **コアセグメント利益は163億円（前年同四半期比25.9%増）となりました。**

増収による売上総利益の増加により、増益となりました。

<海外その他>

■ **売上収益は135億円（前年同四半期比84.2%増）となりました。**

選択的オレキシン2受容体作動薬（DSP-0187）のライセンス契約の対価として受領した契約一時金を収益認識した影響が大きく、増収となりました。

■ **コアセグメント利益は86億円（前年同四半期比496.8%増）となりました。**

増収による売上総利益の増加により、増益となりました。

上記報告セグメントのほか、当社グループは、食品素材・食品添加物および化学製品材料、動物用医薬品等の販売を行っており、これらの売上収益は340億円（前年同四半期比13.8%増）、コアセグメント利益は29億円（前年同四半期比2.0%増）となりました。

(2) 財政状態

資産については、非流動資産では、当社が保有する投資有価証券の公正価値評価の変動により、その他の金融資産が増加したことに加え、為替換算の影響によりこのれん等が増加しましたが、減損損失の計上による無形資産の減少が大きく、前連結会計年度末に比べ155億円減少しました。

流動資産は、短期貸付金の回収によるその他金融資産の減少はありましたが、現金及び現金同等物が増加した結果、前連結会計年度末に比べ790億円増加しました。

これらの結果、資産合計は前連結会計年度末に比べ635億円増加し、1兆3,715億円となりました。

負債については、引当金や営業債務及びその他の債務等が増加した結果、前連結会計年度末に比べ391億円増加し、6,735億円となりました。なお、社債及び借入金は合計で2,497億円となり、前連結会計年度末に比べ193億円減少しました。

親会社の所有者に帰属する持分は、利益剰余金は減少しましたが、その他の資本の構成要素が増加した結果、前連結会計年度末に比べ273億円増加し、6,351億円となりました。また、非支配持分は、前連結会計年度末に比べ28億円減少しました。

これらの結果、資本合計は前連結会計年度末に比べ245億円増加し、6,980億円となりました。

なお、当第3四半期連結会計期間末の親会社所有者帰属持分比率は46.3%となりました。

また、連結子会社である住友ファーマフード&ケミカル株式会社および住友ファーマアニマルヘルス株式会社の株式譲渡契約が当第3四半期において締結されたことに伴い、関連する資産については売却目的で保有する資産、負債については売却目的で保有する資産に直接関連する負債、資本については売却目的で保有する資産に関連するその他の包括利益にそれぞれ分類しています。

(3) キャッシュ・フロー

営業活動によるキャッシュ・フローは、税引前四半期利益は減少しましたが、減損損失などの非資金損益項目の増加に加え、引当金の増加や法人所得税の支払額の減少などにより、前年同四半期に比べ475億円収入が増加し、565億円の収入となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、投資の取得による支出の減少および無形資産の売却による収入などにより、前年同四半期に比べ144億円収入が増加し、217億円の収入となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、長期借入金の返済等により前年同四半期に比べ126億円支出が増加し、330億円の支出となりました。

上記のキャッシュ・フローに、現金及び現金同等物に係る換算差額を加え、売却目的で保有する資産への振替額を差し引いた結果、当第3四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物は2,658億円となり、前連結会計年度末に比べ628億円増加しました。

(4) 事業上および財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループの事業上および財務上の対処すべき課題に重要な変更および新たに生じた課題はありません。

(5) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間における研究開発費の総額は760億円（前年同四半期比12.1%増）であります。また、当社グループは、研究開発費をグローバルに管理しているため、セグメントに配分しておりません。

精神神経領域では、大塚製薬株式会社と共同で開発しているulotaront（開発コード：SEP-363856）について、米国において、第2適応症として大うつ病補助療法（aMDD）のフェーズ2／3試験を開始したことに加え、米国・日本において、第3適応症として全般的性不安障害（GAD）のフェーズ2／3試験を開始しました。また、中国において、双極I型障害うつを対象とした「ラツダ」のフェーズ3試験を行っていましたが、事業戦略の見直しにより開発を中止しました。

その他の領域では、米国において、子宮筋腫治療剤「マイフェンブリー」について、昨年6月、長期の安全性および有効性に関する添付文書改訂の申請がFDAに受理されました。同剤については、昨年8月、子宮内膜症を対象とした適応追加の承認を取得しました。また、欧州において、進行性前立腺がん治療剤「オルゴビクス」について、昨年5月、承認を取得しました。

フロンティア事業では、日本において、株式会社メルティン MMIと共同で開発し同社が医療機器認証を取得した「MELTz手指運動リハビリテーションシステム（一般的名称：能動型展伸・屈伸回転運動装置）」を昨年9月に発売しました。

当社グループにおける開発状況は以下のとおりであります。

1. 精神神経領域

(2023年1月31日現在)

製品／コード名 (一般名)	予定適応症	地域	開発段階
SEP-363856 (ulotaront)	統合失調症	米国	フェーズ3
		日本・中国	フェーズ2/3
	大うつ病補助療法 (aMDD)	米国	フェーズ2/3
	全般性不安障害 (GAD)	米国・日本	フェーズ2/3
	パーキンソン病に伴う精神病症状	米国	フェーズ2
SEP-4199	双極I型障害うつ	米国・日本	フェーズ3
ラゾーダ (ルラシドン塩酸塩)	(新用法：小児) 統合失調症	日本	フェーズ3
EPI-589	パーキンソン病	米国	フェーズ2
	筋萎縮性側索硬化症 (ALS)	米国	フェーズ2
		日本	フェーズ2 (医師主導治験)
SEP-378608	双極性障害	米国	フェーズ1
DSP-3905	神経障害性疼痛	米国	フェーズ1
SEP-378614	未定	米国	フェーズ1
SEP-380135	未定	米国	フェーズ1
DSP-0038	アルツハイマー病に伴う精神病症状	米国	フェーズ1
DSP-9632P	パーキンソン病におけるレボドパ誘発性ジスキネジア	日本	フェーズ1
DSP-0187	ナルコレプシー	日本	フェーズ1
DSP-3456	治療抵抗性うつ	米国	フェーズ1
DSP-0378	ドラベ症候群、レノックス・ガストー症候群	日本	フェーズ1

2. がん領域

(2023年1月31日現在)

製品／コード名 (一般名)	予定適応症	地域	開発段階
TP-3654	骨髄線維症	米国・日本	フェーズ1/2
DSP-5336	急性白血病	米国・日本	フェーズ1/2
DSP-0390	膠芽腫	米国・日本	フェーズ1
TP-1287	固形がん	米国	フェーズ1
TP-1454	固形がん	米国	フェーズ1

3. 再生・細胞医薬分野

(2023年1月31日現在)

製品／コード名 (一般名)	予定適応症	地域	開発段階
CT1-DAP001/DSP-1083 (他家iPS細胞由来ドーパミン神経前駆細胞)	パーキンソン病	日本	フェーズ1／2 (医師主導治験)
		米国	治験開始に向けて準備中
HLCR011 (他家iPS細胞由来網膜色素上皮細胞)	加齢黄斑変性	日本	治験開始に向けて準備中

4. その他の領域

(2023年1月31日現在)

製品／コード名 (一般名)	予定適応症	地域	開発段階
lefamulin	細菌性市中肺炎	中国	申請 (2021/10)
ジェムテサ (ピベグロン)	(新効能) 前立腺肥大症を伴う過活動膀胱	米国	フェーズ3
rodatristat ethyl	肺動脈性肺高血圧症 (PAH)	米国	フェーズ2
MVT-602	不妊症	ドイツ	フェーズ2
URO-902	過活動膀胱	米国	フェーズ2
KSP-1007	複雑性尿路感染症および複雑性腹腔内感染症	米国	フェーズ1

5. フロンティア事業

(2023年1月31日現在)

領域	プログラム	概要	開発状況	連携先
精神神経	認知症行動・心理症状用機器	非薬物療法をデジタルで実現し、個別最適化された五感刺激コンテンツ	日本 試験販売中 (非医療機器)	(株)Aikomi、 損害保険ジャパン(株)
	メンタルヘルスVRコンテンツ	疾患学習、認知再構築トレーニング、マインドフルネス等をVRコンテンツ化したセルフマネジメントツール	米国 試験販売中 (非医療機器)	BehaVR社
	ウェアラブル脳波計	日常的にどこでも測定可能な簡易型脳波計により、脳波トレンドを把握し精神疾患の早期検知を可能にするサービス	日本 製品開発中 (医療機器)	(株)ニューロスカイ
	難聴者用マルチ会話表示デバイス	難聴者向けの新たなコミュニケーション支援ツールとして、複数の発話者を区別して発話内容を字幕で表示するデバイス	日本 製品開発中 (非医療機器)	ピクシーダストテクノロジー(株)
運動機能障害	手指麻痺用ニューロリハビリテーション機器	手指麻痺等を対象に、筋電信号を利用したロボットニューロリハビリテーション装置 (承認機器としての保険償還を目指す)	日本 製品開発中 (医療機器)	(株)メルティンMMI
代謝性疾患	自動採血・保存デバイス	糖尿病などの自己管理ツールとして、低疼痛・長期保存・簡易輸送を実現する採血デバイス	日本 製品開発中 (医療機器)	Drawbridge Health社

(6) 生産、受注及び販売の実績

「オルゴビクス」や「ジェムテサ」の生産量が増加したことにより、当第3 四半期連結累計期間において、北米セグメントにおける生産実績が著しく増加しました。

3 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、新たに締結した経営上の重要な契約等は次のとおりであります。

(1) マイオバント社の完全子会社化に関する契約

当社、スミトバント社およびMyovant Sciences Ltd.（以下「マイオバント社」）の3社は、スミトバント社によるマイオバント社の完全子会社化に関する契約を2022年10月23日（米国時間）付けて締結しました。

本完全子会社化は、少数株主による承認およびその他法的手続きの完了を条件としており、2022年度第4四半期に完了する予定です。

(2) 住友ファーマフード&ケミカル株式会社の株式譲渡に関する契約

当社は、2022年11月30日、当社の完全子会社である住友ファーマフード&ケミカル株式会社の全株式を、株式会社メディパルホールディングスに譲渡する契約を締結しました。

(3) 住友ファーマアニマルヘルス株式会社の株式譲渡に関する契約

当社は、2022年12月26日、当社の完全子会社である住友ファーマアニマルヘルス株式会社の全株式を、三井物産株式会社に譲渡する契約を締結しました。

(4) 「プロバナ」および「ゾペネックスHFA」の販売権譲渡に関する契約

Sunovion Pharmaceuticals Inc.（以下「サノビオン社」）は慢性閉塞性肺疾患（COPD）治療剤「プロバナ」および喘息治療剤「ゾペネックスHFA」の米国における販売権をLupin Limited（本社：インド）に譲渡する契約を締結しました。

(5) 「ルネスタ」の権利譲渡に関する契約

サノビオン社は不眠症治療剤「ルネスタ」のカナダを除く全世界の権利をWoodward Pharma Services LLC（本社：米国）に譲渡する契約を締結しました。

(6) 以下の契約について、契約終了の合意もしくは契約期間満了に伴い、当第3四半期連結会計期間に終了しました。

技術導入

契約会社名	相手先	国名	技術の内容	対価の受取	契約期間
住友ファーマ(株) (当社)	ニューロクライ ン社	アメリカ	インディプロンに関する 技術	契約一時金 一定料率のロイ ヤルティ	2007.10～ 発売から15年間又は特許満了 日の長い方

販売契約等

契約会社名	相手先	国名	契約内容	契約期間
住友ファーマ(株) (当社)	塩野義製薬(株)	日本	アイミクス配合剤に関する並行販売	2012.6～ 発売から10年間 以後1年間ずつ自動更新
住友ファーマ(株) (当社)	日本イーライリ リー(株)	日本	トルリシティに関する販売提携	2015.7～ 相手方と合意した期間の満了 まで
	イーライリリー 社	アメリカ		

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

① 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数 (株)
普通株式	1,500,000,000
計	1,500,000,000

② 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間 末現在発行数 (株) (2022年12月31日)	提出日現在 発行数 (株) (2023年2月2日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	397,900,154	397,900,154	東京証券取引所 プライム市場	単元株式数は100株で あります。
計	397,900,154	397,900,154	—	—

(2) 【新株予約権等の状況】

① 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

② 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2022年12月31日	—	397,900	—	22,400	—	15,860

(5) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の議決権の状況については、株主名簿の記載内容が確認できず、記載することができませんので、直前の基準日である2022年9月30日の株主名簿により記載しております。

① 【発行済株式】

2022年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 607,800	—	—
完全議決権株式(その他)	普通株式 397,133,400	3,971,324	—
単元未満株式	普通株式 158,954	—	1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	397,900,154	—	—
総株主の議決権	—	3,971,324	—

- (注) 1 「完全議決権株式(自己株式等)」の欄は、すべて当社保有の自己株式であります。
- 2 「完全議決権株式(その他)」の欄には、株式会社証券保管振替機構名義の株式が200株および株主名簿上は当社名義となっておりますが、実質的に所有していない株式が1,000株含まれております。但し、「議決権の数」欄には、株主名簿上は当社名義となっておりますが、実質的に所有していない株式に係る議決権の数10個は含まれておりません。
- 3 「単元未満株式」の欄には、株式会社証券保管振替機構名義の株式が50株、当社所有の自己株式が59株含まれております。

② 【自己株式等】

2022年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合 (%)
住友ファーマ株式会社	大阪市中央区道修町 二丁目6番8号	607,800	—	607,800	0.15
計	—	607,800	—	607,800	0.15

(注) 株主名簿上は当社名義となっておりますが、実質的に所有していない株式が1,000株あります。なお、当該株式数は上記「①発行済株式」の「完全議決権株式(その他)」の中に含まれております。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1 要約四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の要約四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（2007年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」）第93条の規定により、国際会計基準第34号「期中財務報告」（以下「IAS第34号」）に準拠して作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（2022年10月1日から2022年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（2022年4月1日から2022年12月31日まで）に係る要約四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人により四半期レビューを受けております。

1 【要約四半期連結財務諸表】

(1) 【要約四半期連結損益計算書及び要約四半期連結包括利益計算書】

【要約四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	注記 番号	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
売上収益	4, 5	432, 072	460, 265
売上原価		117, 835	139, 766
売上総利益		314, 237	320, 499
販売費及び一般管理費		189, 029	289, 469
研究開発費		67, 782	75, 996
その他の収益	6	1, 677	28, 274
その他の費用		875	1, 085
営業利益 (△は損失)		58, 228	△17, 777
金融収益		9, 643	22, 648
金融費用		2, 288	2, 679
税引前四半期利益		65, 583	2, 192
法人所得税		30, 400	34, 819
四半期利益 (△は損失)		35, 183	△32, 627
四半期利益の帰属			
親会社の所有者持分		46, 359	△18, 502
非支配持分		△11, 176	△14, 125
四半期利益 (△は損失)		35, 183	△32, 627
1株当たり四半期利益 (円)			
基本的1株当たり四半期利益 (△は損失)	7	116.69	△46.57

【第3四半期連結会計期間】

(単位：百万円)

	注記 番号	前第3四半期連結会計期間 (自 2021年10月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (自 2022年10月1日 至 2022年12月31日)
売上収益	4	138,342	140,976
売上原価		40,981	46,925
売上総利益		97,361	94,051
販売費及び一般管理費		64,356	81,556
研究開発費		22,076	26,016
その他の収益		170	25,096
その他の費用		443	437
営業利益		10,656	11,138
金融収益		6,439	△29,050
金融費用		778	930
税引前四半期利益 (△は損失)		16,317	△18,842
法人所得税		11,121	△1,458
四半期利益 (△は損失)		5,196	△17,384
四半期利益の帰属			
親会社の所有者持分		9,909	△11,219
非支配持分		△4,713	△6,165
四半期利益 (△は損失)		5,196	△17,384
1株当たり四半期利益 (円)			
基本的1株当たり四半期利益 (△は損失)	7	24.94	△28.24

【要約四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	注記 番号	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
四半期利益 (△は損失)		35,183	△32,627
その他の包括利益			
純損益に振り替えられることのない項目：			
その他の包括利益を通じて公正価値で 測定する金融資産の変動		△27,682	23,489
確定給付負債 (資産) の純額の再測定		△22	—
純損益にその後振り替えられる可能性の ある項目：			
在外営業活動体の換算差額		15,348	37,896
キャッシュ・フロー・ヘッジ		△47	△76
その他の包括利益合計		△12,403	61,309
四半期包括利益合計		22,780	28,682
四半期包括利益の帰属			
親会社の所有者持分		31,508	37,045
非支配持分		△8,728	△8,363
四半期包括利益合計		22,780	28,682

【第3四半期連結会計期間】

(単位：百万円)

	注記 番号	前第3四半期連結会計期間 (自 2021年10月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (自 2022年10月1日 至 2022年12月31日)
四半期利益 (△は損失)		5,196	△17,384
その他の包括利益			
純損益に振り替えられることのない項目：			
その他の包括利益を通じて公正価値で 測定する金融資産の変動		3,948	32,047
純損益にその後に振り替えられる可能性の ある項目：			
在外営業活動体の換算差額		11,615	△32,242
キャッシュ・フロー・ヘッジ		△6	△211
その他の包括利益合計		15,557	△406
四半期包括利益合計		20,753	△17,790
四半期包括利益の帰属			
親会社の所有者持分		23,736	△5,763
非支配持分		△2,983	△12,027
四半期包括利益合計		20,753	△17,790

(2) 【要約四半期連結財政状態計算書】

(単位：百万円)

	注記 番号	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
資産			
非流動資産			
有形固定資産		64,091	59,471
のれん		195,144	211,565
無形資産		398,692	357,420
その他の金融資産	11	115,844	141,529
未収法人所得税		5,538	6,004
その他の非流動資産		6,527	4,493
繰延税金資産		22,650	12,520
非流動資産合計		808,486	793,002
流動資産			
棚卸資産		99,021	90,469
営業債権及びその他の債権		151,407	149,389
その他の金融資産	11	35,596	22,488
未収法人所得税		93	458
その他の流動資産		10,420	16,192
現金及び現金同等物		202,984	265,773
小計		499,521	544,769
売却目的で保有する資産	10	—	33,746
流動資産合計		499,521	578,515
資産合計		1,308,007	1,371,517

(単位：百万円)

	注記 番号	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
負債及び資本			
負債			
非流動負債			
社債及び借入金	11	243,963	244,087
その他の金融負債	11	16,471	14,046
退職給付に係る負債		11,461	10,527
その他の非流動負債		57,620	59,499
繰延税金負債		26,550	35,786
非流動負債合計		356,065	363,945
流動負債			
借入金	11	25,085	5,627
営業債務及びその他の債務		46,183	52,669
その他の金融負債	11	13,302	10,480
未払法人所得税		7,583	12,206
引当金		119,149	149,128
その他の流動負債		67,071	69,064
小計		278,373	299,174
売却目的で保有する資産に直接関連する 負債	10	—	10,372
流動負債合計		278,373	309,546
負債合計		634,438	673,491
資本			
資本金		22,400	22,400
資本剰余金		16,725	18,066
自己株式		△681	△682
利益剰余金		514,210	486,201
その他の資本の構成要素		55,234	107,555
売却目的で保有する資産に関連する その他の包括利益		—	1,609
親会社の所有者に帰属する持分合計		607,888	635,149
非支配持分		65,681	62,877
資本合計		673,569	698,026
負債及び資本合計		1,308,007	1,371,517

(3) 【要約四半期連結持分変動計算書】

(単位：百万円)

	注記 番号	親会社の所有者に帰属する持分						
		資本金	資本剰余金	自己株式	利益剰余金	その他の資本の構成要素		
						その他の包括 利益を通じて 公正価値で測 定する金融資 産の変動	確定給付負債 (資産)の純 額の再測定	在外営業活動 体の換算差額
2021年4月1日残高		22,400	15,855	△679	508,677	38,575	—	△4,331
四半期利益		—	—	—	46,359	—	—	—
その他の包括利益		—	—	—	—	△27,682	△22	12,900
四半期包括利益合計		—	—	—	46,359	△27,682	△22	12,900
自己株式の取得		—	—	△1	—	—	—	—
配当金	9	—	—	—	△11,124	—	—	—
非支配持分との取引		—	△167	—	—	—	—	—
その他の資本の構成要素 から利益剰余金への振替		—	—	—	3,756	△3,778	22	—
売却目的で保有する資産 に関連するその他の包括 利益への振替		—	—	—	—	—	—	—
所有者との取引額等合計		—	△167	△1	△7,368	△3,778	22	—
2021年12月31日残高		22,400	15,688	△680	547,668	7,115	—	8,569

2022年4月1日残高		22,400	16,725	△681	514,210	23,838	—	31,273
四半期利益 (△は損失)		—	—	—	△18,502	—	—	—
その他の包括利益		—	—	—	—	23,489	—	32,134
四半期包括利益合計		—	—	—	△18,502	23,489	—	32,134
自己株式の取得		—	—	△1	—	—	—	—
配当金	9	—	—	—	△11,124	—	—	—
非支配持分との取引		—	1,341	—	—	—	—	—
その他の資本の構成要素 から利益剰余金への振替		—	—	—	1,617	△1,617	—	—
売却目的で保有する資産 に関連するその他の包括 利益への振替		—	—	—	—	△1,562	—	—
所有者との取引額等合計		—	1,341	△1	△9,507	△3,179	—	—
2022年12月31日残高		22,400	18,066	△682	486,201	44,148	—	63,407

(単位：百万円)

	注記 番号	親会社の所有者に帰属する持分				非支配持分	資本合計
		その他の資本の構成要素		売却目的で保有 する資産に関連 するその他の包 括利益	合計		
		キャッシュ・ フロー・ヘッジ	合計				
2021年4月1日残高		73	34,317	—	580,570	67,608	648,178
四半期利益		—	—	—	46,359	△11,176	35,183
その他の包括利益		△47	△14,851	—	△14,851	2,448	△12,403
四半期包括利益合計		△47	△14,851	—	31,508	△8,728	22,780
自己株式の取得		—	—	—	△1	—	△1
配当金	9	—	—	—	△11,124	—	△11,124
非支配持分との取引		—	—	—	△167	6,105	5,938
その他の資本の構成要素 から利益剰余金への振替		—	△3,756	—	—	—	—
売却目的で保有する資産 に関連するその他の包括 利益への振替		—	—	—	—	—	—
所有者との取引額等合計		—	△3,756	—	△11,292	6,105	△5,187
2021年12月31日残高		26	15,710	—	600,786	64,985	665,771

2022年4月1日残高		123	55,234	—	607,888	65,681	673,569
四半期利益 (△は損失)		—	—	—	△18,502	△14,125	△32,627
その他の包括利益		△76	55,547	—	55,547	5,762	61,309
四半期包括利益合計		△76	55,547	—	37,045	△8,363	28,682
自己株式の取得		—	—	—	△1	—	△1
配当金	9	—	—	—	△11,124	—	△11,124
非支配持分との取引		—	—	—	1,341	5,559	6,900
その他の資本の構成要素 から利益剰余金への振替		—	△1,617	—	—	—	—
売却目的で保有する資産 に関連するその他の包括 利益への振替		△47	△1,609	1,609	—	—	—
所有者との取引額等合計		△47	△3,226	1,609	△9,784	5,559	△4,225
2022年12月31日残高		—	107,555	1,609	635,149	62,877	698,026

(4) 【要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	注記 番号	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー			
四半期利益 (△は損失)		35,183	△32,627
減価償却費及び償却費		28,190	32,089
減損損失		—	56,043
条件付対価公正価値の変動額		245	△1,229
有形固定資産売却損益 (△は益)		△103	△220
無形資産売却損益 (△は益)		△173	△12,067
受取利息及び配当金		△1,106	△3,572
支払利息		2,236	2,026
法人所得税		30,400	34,819
営業債権及びその他の債権の増減額 (△は増加)		△16,751	△4,989
棚卸資産の増減額 (△は増加)		2,313	9,287
営業債務及びその他の債務の増減額 (△は減少)		△16,921	6,186
前受収益の増減額 (△は減少)		2,240	△1,344
その他の金融負債の増減額 (△は減少)		△8,882	△4,271
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)		21	△21
引当金の増減額 (△は減少)		2,138	20,596
その他		△10,844	△24,060
小計		48,186	76,646
利息の受取額		118	2,435
配当金の受取額		985	965
利息の支払額		△1,498	△1,395
法人所得税の支払額		△38,730	△22,120
営業活動によるキャッシュ・フロー		9,061	56,531
投資活動によるキャッシュ・フロー			
有形固定資産の取得による支出		△5,193	△5,906
有形固定資産の売却による収入		310	625
無形資産の取得による支出		△5,498	△3,539
無形資産の売却による収入		173	12,204
投資の取得による支出		△24,876	△5,872
投資の売却及び償還による収入		15,625	9,851
短期貸付金の純増減額 (△は増加)		27,678	12,413
その他		△960	1,911
投資活動によるキャッシュ・フロー		7,259	21,687
財務活動によるキャッシュ・フロー			
短期借入金の純増減額 (△は減少)		29	559
長期借入金の返済による支出		△4,220	△20,020
リース負債の返済による支出		△3,476	△3,357
配当金の支払額		△11,117	△11,114
非支配持分からの子会社持分取得による支出		△3,595	—
その他		1,984	915
財務活動によるキャッシュ・フロー		△20,395	△33,017
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)		△4,075	45,201
現金及び現金同等物の期首残高		193,698	202,984
現金及び現金同等物に係る換算差額		6,717	20,046
現金及び現金同等物の四半期末残高		196,340	268,231
売却目的で保有する資産への振替に伴う現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)		—	△2,458
現金及び現金同等物の四半期末残高 (要約四半期連結財政状態計算書計上額)		196,340	265,773

(5) 【要約四半期連結財務諸表注記】

1. 報告企業

住友ファーマ株式会社（以下「当社」）は日本に所在する企業であります。当社の要約四半期連結財務諸表は2022年12月31日を期末日とし、当社及び子会社並びに関連会社に対する持分により構成されます。当社グループは、医薬品事業を行っており、事業の内容は、事業セグメント（注記4）に記載しております。当社の登記している本社及び主要な事業所の住所は、ホームページ（<https://www.sumitomo-pharma.co.jp>）で開示しております。

2. 作成の基礎

(1) 要約四半期連結財務諸表がIFRSに準拠している旨

当社グループの要約四半期連結財務諸表は、四半期連結財務諸表規則第1条の2に規定する「指定国際会計基準特定会社」の要件をすべて満たすことから、四半期連結財務諸表規則第93条の規定により、IAS第34号に準拠して作成しております。

要約四半期連結財務諸表は、連結会計年度の連結財務諸表で要求されるすべての情報が含まれていないため、前連結会計年度の連結財務諸表と併せて利用されるべきものであります。

なお、当社グループの本要約四半期連結財務諸表は、2023年2月2日に代表取締役社長 野村博によって公表の承認がなされております。

(2) 測定の基礎

当社グループの要約四半期連結財務諸表は、公正価値で測定する金融商品等を除き、取得原価を基礎として作成しております。

(3) 機能通貨及び表示通貨

当社グループの要約四半期連結財務諸表は、当社の機能通貨である日本円を表示通貨としており、百万円未満の端数を四捨五入して表示しております。

(4) 重要な会計上の見積り、判断及び仮定

要約四半期連結財務諸表の作成において、経営者は、会計方針の適用並びに資産、負債、収益及び費用の報告額に影響を及ぼす見積り、判断及び仮定の設定を行っております。しかし、これらの見積り及び仮定に関する不確実性により、将来の期間において資産又は負債の帳簿価額に重要な修正が求められる結果となる可能性があります。

本要約四半期連結財務諸表における会計上の見積り、判断及び仮定は、前連結会計年度の連結財務諸表と同様であります。

(5) 表示方法の変更

（要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書）

当第3四半期連結累計期間において、「営業活動によるキャッシュ・フロー」の「その他」に含めていた「無形資産売却損益（△は益）」および「投資活動によるキャッシュ・フロー」の「その他」に含めていた「無形資産の売却による収入」は、金額的重要性が増したため、当第3四半期連結累計期間より独立掲記することとしました。この表示方法の変更を反映させるため、前第3四半期連結累計期間の要約四半期連結財務諸表の組替えを行なっております。

この結果、前第3四半期連結累計期間の要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書において、「営業活動によるキャッシュ・フロー」の「その他」に表示していた△173百万円は、「無形資産売却損益（△は益）」△173百万円として組み替えております。また、「投資活動によるキャッシュ・フロー」の「その他」に表示していた173百万円は、「無形資産の売却による収入」173百万円として組み替えております。

3. 重要な会計方針

本要約四半期連結財務諸表において適用する重要な会計方針は、前連結会計年度の連結財務諸表において適用した会計方針と同一であります。

なお、当第3四半期連結累計期間の法人所得税は、見積り年次実効税率を基に算定しております。

4. 事業セグメント

当社グループでは、会社の経常的な収益性を示す利益指標として、「コア営業利益」を設定し、これを当社独自の業績管理指標として採用しております。

「コア営業利益」は、営業利益から当社グループが定める非経常的な要因による損益（以下「非経常項目」）を除外したものととなります。非経常項目として除かれる主なものは、減損損失、事業構造改善費用、企業買収に係る条件付対価公正価値の変動額等です。

(1) 報告セグメント

当社グループは、主として医療用医薬品の製造、仕入及び販売を行っており、日本、北米、中国等マーケットごとに医薬品事業の業績管理を行っているため、日本、北米、中国、海外その他の4つを報告セグメントとしております。

なお、当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成要素のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

(2) セグメント収益及び業績

当社グループの報告セグメントごとの売上収益、利益又は損失は、以下のとおりであります。

なお、当社グループでは、各セグメントの経常的な収益性を示す利益指標として、「コアセグメント利益」を設定し、当社独自のセグメント業績指標として採用しております。

「コアセグメント利益」は、「コア営業利益」から、グローバルに管理しているため各セグメントに配分できない研究開発費、事業譲渡損益等を除外したセグメント別の利益となります。

なお、「第2 事業の状況 2 経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析」における報告セグメントに含まれない「その他」の区分に係るコアセグメント利益の金額及び前年同四半期比増減については、セグメント間取引として消去された利益を含めて記載しております。

① 前第3四半期連結累計期間（自 2021年4月1日 至 2021年12月31日）

(単位：百万円)

	報告セグメント					その他 (注1)	合計
	医薬品事業						
	日本	北米 (注2)	中国	海外 その他	計		
外部顧客への売上収益等	117,167	250,698	27,026	7,328	402,219	29,853	432,072
セグメント間の内部売上 収益	53	—	—	—	53	30	83
合計	117,220	250,698	27,026	7,328	402,272	29,883	432,155
セグメント利益 (コアセグメント利益)	16,964	91,471	12,922	1,443	122,800	2,775	125,575

(注) 1 その他の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、食品素材・食品添加物及び化学製品材料、動物用医薬品等の事業を含んでおります。

2 外部顧客への売上収益等には、大塚製薬株式会社との共同開発および販売に関するライセンス契約による一時金270百万米ドル（30,008百万円）を含めています。

② 当第3四半期連結累計期間（自 2022年4月1日 至 2022年12月31日）

（単位：百万円）

	報告セグメント					その他 (注)	合計
	医薬品事業						
	日本	北米	中国	海外 その他	計		
外部顧客への売上収益等	102,198	279,366	31,229	13,501	426,294	33,971	460,265
セグメント間の内部売上 収益	51	—	—	—	51	44	95
合計	102,249	279,366	31,229	13,501	426,345	34,015	460,360
セグメント利益 (コアセグメント利益)	9,607	55,685	16,272	8,612	90,176	2,831	93,007

(注) その他の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、食品素材・食品添加物及び化学製品材料、動物用医薬品等の事業を含んでおります。

③ 前第3四半期連結会計期間（自 2021年10月1日 至 2021年12月31日）

（単位：百万円）

	報告セグメント					その他 (注)	合計
	医薬品事業						
	日本	北米	中国	海外 その他	計		
外部顧客への売上収益等	40,585	75,846	8,890	2,748	128,069	10,273	138,342
セグメント間の内部売上 収益	13	—	—	—	13	9	22
合計	40,598	75,846	8,890	2,748	128,082	10,282	138,364
セグメント利益 (コアセグメント利益)	7,153	21,234	3,334	546	32,267	889	33,156

(注) その他の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、食品素材・食品添加物及び化学製品材料、動物用医薬品等の事業を含んでおります。

④ 当第3四半期連結会計期間（自 2022年10月1日 至 2022年12月31日）

（単位：百万円）

	報告セグメント					その他 (注)	合計
	医薬品事業						
	日本	北米	中国	海外 その他	計		
外部顧客への売上収益等	35,633	84,029	7,199	2,223	129,084	11,892	140,976
セグメント間の内部売上 収益	25	—	—	—	25	15	40
合計	35,658	84,029	7,199	2,223	129,109	11,907	141,016
セグメント利益 (コアセグメント利益)	5,228	8,430	3,092	1,115	17,865	958	18,823

(注) その他の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、食品素材・食品添加物及び化学製品材料、動物用医薬品等の事業を含んでおります。

(3) 報告セグメント合計額と要約四半期連結財務諸表計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

調整額に関する事項は、以下のとおりであります。

(単位：百万円)

売上収益	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
報告セグメント計	402,272	426,345
「その他」の区分の売上収益	29,883	34,015
セグメント間取引消去	△83	△95
要約四半期連結財務諸表の売上収益	432,072	460,265

(単位：百万円)

売上収益	前第3四半期連結会計期間 (自 2021年10月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (自 2022年10月1日 至 2022年12月31日)
報告セグメント計	128,082	129,109
「その他」の区分の売上収益	10,282	11,907
セグメント間取引消去	△22	△40
要約四半期連結財務諸表の売上収益	138,342	140,976

(単位：百万円)

利益	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
報告セグメント計	122,800	90,176
「その他」の区分の利益	2,775	2,831
セグメント間取引消去	19	20
研究開発費（注）	△67,782	△74,854
事業譲渡益等	1,141	24,712
その他	5	41
コア営業利益	58,958	42,926
条件付対価公正価値の変動額	△245	1,229
減損損失	—	△56,074
その他の収益	531	3,521
その他の費用	△875	△1,085
その他	△141	△8,294
要約四半期連結財務諸表の営業利益 (△は損失)	58,228	△17,777

(注) 当社グループは、研究開発費をグローバルに管理しているため、セグメントに配分しておりません。なお、要約四半期連結損益計算書における研究開発費との差額は、コア営業利益の算定から除外される減損損失及び研究開発関連費用であります。

(単位：百万円)

利益	前第3四半期連結会計期間 (自 2021年10月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (自 2022年10月1日 至 2022年12月31日)
報告セグメント計	32,267	17,865
「その他」の区分の利益	889	958
セグメント間取引消去	7	6
研究開発費(注)	△22,076	△25,481
事業譲渡益等	△48	24,712
その他	—	25
コア営業利益	11,039	18,085
条件付対価公正価値の変動額	△102	△58
減損損失	—	△1,641
その他の収益	218	359
その他の費用	△443	△437
その他	△56	△5,170
要約四半期連結財務諸表の営業利益	10,656	11,138

(注) 当社グループは、研究開発費をグローバルに管理しているため、セグメントに配分していません。なお、要約四半期連結損益計算書における研究開発費との差額は、コア営業利益の算定から除外される減損損失及び研究開発関連費用であります。

5. 売上収益

当社グループは、売上収益を財又はサービスの種類別に分解しております。分解した売上収益と報告セグメントとの関連は、以下のとおりであります。

(1) 前第3四半期連結累計期間（自 2021年4月1日 至 2021年12月31日）

(単位：百万円)

	報告セグメント					その他 (注1)	合計	うち顧客 との契約 から認識 した収益	うちその 他の源泉 から認識 した収益 (注2)
	医薬品事業								
	日本	北米 (注3)	中国	海外 その他	計				
製商品の販売	115,946	205,777	26,839	7,328	355,890	29,853	385,743	385,743	—
知的財産権収入	107	36,048	—	—	36,155	—	36,155	36,155	—
その他	1,114	8,873	187	—	10,174	—	10,174	1,298	8,876
合計	117,167	250,698	27,026	7,328	402,219	29,853	432,072	423,196	8,876

(注) 1 その他の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、食品素材・食品添加物及び化学製品材料、動物用医薬品等の事業を含んでおります。

2 その他の源泉から認識した収益は、相手先が顧客とはみなされない場合の共同パートナーとの契約等から生じる売上収益です。

3 知的財産権収入には、大塚製薬株式会社との共同開発および販売に関するライセンス契約による一時金270百万米ドル(30,008百万円)を含めております。

(2) 当第3四半期連結累計期間（自 2022年4月1日 至 2022年12月31日）

(単位：百万円)

	報告セグメント					その他 (注1)	合計	うち顧客 との契約 から認識 した収益	うちその 他の源泉 から認識 した収益 (注2)
	医薬品事業								
	日本	北米	中国	海外 その他	計				
製商品の販売	101,144	255,288	30,929	7,094	394,455	33,969	428,424	428,424	—
知的財産権収入	101	8,435	—	6,407	14,943	2	14,945	14,945	—
その他	953	15,643	300	—	16,896	—	16,896	1,330	15,566
合計	102,198	279,366	31,229	13,501	426,294	33,971	460,265	444,699	15,566

(注) 1 その他の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、食品素材・食品添加物及び化学製品材料、動物用医薬品等の事業を含んでおります。

2 その他の源泉から認識した収益は、相手先が顧客とはみなされない場合の共同パートナーとの契約等から生じる売上収益です。

6. その他の収益

その他の収益の内訳は、以下のとおりであります。

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
無形資産売却益(注1)	173	12,067
事業譲渡益(注2)	—	12,645
その他	1,504	3,562
合計	1,677	28,274

(注) 1 当第3四半期連結累計期間において、優先審査パウチャーの売却により計上した収益であります。

2 当第3四半期連結累計期間において、北米における「プロバナ」および「ゾベネックスHFA」、「ルネスタ」に係る事業を譲渡したことにより計上した収益であります。

7. 1株当たり利益

基本的1株当たり四半期利益の算定上の基礎及び基本的1株当たり四半期利益は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
基本的1株当たり四半期利益の 算定上の基礎		
親会社の所有者に帰属する 四半期利益 (△は損失) (百万円)	46,359	△18,502
親会社の普通株主に帰属しない 四半期利益 (百万円)	—	—
基本的1株当たり四半期利益の 計算に使用する四半期利益 (△は損失) (百万円)	46,359	△18,502
発行済普通株式の加重平均株式数 (千株)	397,293	397,292
1株当たり四半期利益		
基本的1株当たり四半期利益 (△は損失) (円)	116.69	△46.57

(注) 前第3四半期連結累計期間における希薄化後1株当たり四半期利益及び当第3四半期連結累計期間における希薄化後1株当たり四半期利益については、潜在株式が逆希薄化効果を持つため記載しておりません。

	前第3四半期連結会計期間 (自 2021年10月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (自 2022年10月1日 至 2022年12月31日)
基本的1株当たり四半期利益の 算定上の基礎		
親会社の所有者に帰属する 四半期利益 (△は損失) (百万円)	9,909	△11,219
親会社の普通株主に帰属しない 四半期利益 (百万円)	—	—
基本的1株当たり四半期利益の 計算に使用する四半期利益 (△は損失) (百万円)	9,909	△11,219
発行済普通株式の加重平均株式数 (千株)	397,293	397,292
1株当たり四半期利益		
基本的1株当たり四半期利益 (△は損失) (円)	24.94	△28.24

(注) 前第3四半期連結会計期間における希薄化後1株当たり四半期利益及び当第3四半期連結会計期間における希薄化後1株当たり四半期利益については、潜在株式が逆希薄化効果を持つため記載しておりません。

8. 減損損失

当第3四半期連結累計期間において、医薬品事業の北米セグメントにおいて56,043百万円の減損損失を認識し、要約四半期連結損益計算書の販売費及び一般管理費に計上しております。

当該減損損失は、医薬品事業の北米セグメントにおける、パーキンソン病に伴うオフ症状治療剤「キンモビ」に係る特許権の減損損失55,778百万円、及びソフトウェア等の減損損失265百万円であります。

「キンモビ」に係る特許権、及びソフトウェア等について、収益性が見込めなくなったため、帳簿価額全額を減額しております。

9. 配当金

配当の総額及び1株当たり配当額は、以下のとおりであります。

(1) 前第3四半期連結累計期間（自 2021年4月1日 至 2021年12月31日）

決議日	株式の種類	配当の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
定時株主総会 (2021年6月24日)	普通株式	5,562	14.00	2021年3月31日	2021年6月25日
取締役会 (2021年10月27日)	普通株式	5,562	14.00	2021年9月30日	2021年12月1日

(2) 当第3四半期連結累計期間（自 2022年4月1日 至 2022年12月31日）

決議日	株式の種類	配当の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
定時株主総会 (2022年6月23日)	普通株式	5,562	14.00	2022年3月31日	2022年6月24日
取締役会 (2022年10月31日)	普通株式	5,562	14.00	2022年9月30日	2022年12月1日

なお、基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間末後となるものはありません。

10. 売却目的で保有する資産

継続的な使用ではなく、主に売却により回収が見込まれる非流動資産または処分グループのうち、現状で直ちに売却することが可能であり、かつ、売却の可能性が非常に高いものを売却目的保有に分類しております。売却目的保有に分類した非流動資産又は処分グループは、帳簿価額と売却コスト控除後の公正価値のいずれか低い金額で測定しております。

売却目的で保有する資産とそれに直接関連する負債の内訳は、以下のとおりです。

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
その他の金融資産	—	3,651
棚卸資産	—	9,746
営業債権及びその他の債権	—	15,169
持分法で会計処理されている投資	—	591
その他	—	4,589
資産合計	—	33,746
退職給付に係る負債	—	960
営業債務及びその他の債務	—	7,927
その他	—	1,485
負債合計	—	10,372

当社は、2022年11月30日において、当社が保有する住友ファーマフード&ケミカル株式会社（以下「住友ファーマフード&ケミカル」）の株式を株式会社メディパルホールディングスに、および12月26日において、当社が保有する住友ファーマアニマルヘルス株式会社（以下「住友ファーマアニマルヘルス」）の株式を三井物産株式会社にすべて譲渡する契約を締結しました。住友ファーマフード&ケミカルに関する売却は当連結会計年度中に、また住友ファーマアニマルヘルスに関する売却は翌第1四半期連結会計期間中に完了する予定です。

これにより、住友ファーマフード&ケミカルおよび住友ファーマアニマルヘルスが当社の子会社ではなくなる可能性が非常に高まったため、当第3四半期連結会計期間末においてこれら子会社に関連する資産およびそれに直接関連する負債を売却目的で保有する処分グループに分類しております。

11. 金融商品

金融商品の公正価値

(1) 公正価値ヒエラルキーのレベル別分類

公正価値で測定する金融商品について、測定に用いた評価技法へのインプットの観察可能性に応じて算定した公正価値を以下の3つのレベルに分類しております。

レベル1：活発な市場における同一の資産又は負債の市場価格

レベル2：レベル1に含まれる市場価格以外の、直接又は間接的に観察可能なインプットにより測定した公正価値

レベル3：観察可能な市場データに基づかないインプットにより測定した公正価値

(2) 償却原価で測定する金融商品

償却原価で測定する主な金融商品の帳簿価額と公正価値は、以下のとおりであります。なお、帳簿価額が公正価値の合理的な近似値となっている金融商品及び重要性の乏しい金融商品は、以下の表に含めておりません。

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)		当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)	
	帳簿価額	公正価値	帳簿価額	公正価値
償却原価で測定する金融負債				
社債	119,116	121,560	119,209	123,900
借入金	149,932	149,362	130,506	129,659
合計	269,048	270,922	249,715	253,559

償却原価で測定される主な金融商品に係る公正価値の測定方法は、以下のとおりであります。

(i) 社債

これらの公正価値は、報告日の活発でない市場における同一負債の市場価格に基づき評価しており、公正価値ヒエラルキーはレベル2であります。

(ii) 借入金

これらの公正価値は、元利金の合計額を、同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いて算定しており、公正価値ヒエラルキーはレベル3であります。

(3) 連結財政状態計算書及び要約四半期連結財政状態計算書において公正価値で測定する金融商品

公正価値で測定する金融商品の公正価値ヒエラルキーは、以下のとおりであります。

公正価値ヒエラルキーのレベル間の振替は、四半期連結会計期間末及び連結会計年度末において認識しております。なお、前連結会計年度において、レベル3からレベル1への振替がありました。当該振替は、以前取引所に上場しておらず、観察可能である活発な市場で取引がなかった企業の株式が取引所に上場したことによるものです。同社の株式は現在活発な市場において取引されており、活発な市場における取引相場価格を有しているため、公正価値の測定額を公正価値ヒエラルキーのレベル3からレベル1に振替えております。上記以外に、前連結会計年度及び当第3四半期連結会計期間において、レベル間の振替が行われた重要な金融資産及び負債はありません。

(i) 前連結会計年度 (2022年3月31日)

(単位：百万円)

	レベル1	レベル2	レベル3	合計
純損益を通じて公正価値で測定する金融資産				
株式等	176	—	—	176
その他の包括利益を通じて公正価値で測定する金融資産				
株式等	87,905	—	23,950	111,855
債券	—	3,364	—	3,364
デリバティブ資産	—	177	—	177
合計	88,081	3,541	23,950	115,572
純損益を通じて公正価値で測定する金融負債				
条件付対価	—	—	4,419	4,419
デリバティブ負債	—	816	—	816
その他	178	—	—	178
合計	178	816	4,419	5,413

(ii) 当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)

(単位：百万円)

	レベル1	レベル2	レベル3	合計
純損益を通じて公正価値で測定する金融資産				
株式等	742	—	—	742
その他の包括利益を通じて公正価値で測定する金融資産				
株式等	116,466	—	21,570	138,036
債券	—	3,165	—	3,165
合計	117,208	3,165	21,570	141,943
純損益を通じて公正価値で測定する金融負債				
条件付対価	—	—	3,596	3,596
デリバティブ負債	—	2,328	—	2,328
その他	744	—	—	744
合計	744	2,328	3,596	6,668

公正価値ヒエラルキーのレベル3に分類された金融商品の期首から期末までの変動は、以下のとおりであります。

(i) 金融資産

(単位：百万円)

	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
期首残高	23,950
購入	1,837
その他の包括利益を通じて公正価値で測定する金融資産の変動	△1,959
売却目的で保有する資産への振替	△2,257
その他	△1
期末残高	21,570

(ii) 金融負債

(単位：百万円)

	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
期首残高	4,419
条件付対価公正価値の変動額 (注)	△1,229
為替換算差額	406
期末残高	3,596

(注) 条件付対価公正価値の変動額は、要約四半期連結損益計算書において販売費及び一般管理費として認識しております。

公正価値ヒエラルキーレベル3に区分された金融資産は、主に非上場株式で構成されております。純資産価値に近似していると考えられる非上場株式等については、主に純資産価値に基づく評価技法により公正価値を算定しております。

公正価値ヒエラルキーレベル3に区分された金融負債は、企業結合により生じた条件付対価であります。条件付対価は、特定の開発品の開発進捗に応じて支払う開発マイルストーンや販売後の売上収益に応じて支払う販売マイルストーン等であり、その公正価値は、それらが達成される可能性や貨幣の時間的価値を考慮して算定しております。

これらの公正価値測定は、当社グループの評価方針及び手続に従って行われており、金融商品の資産性質、特徴及びリスクを最も適切に反映できる評価モデルを決定しております。また、公正価値の変動に影響を与え得る重要な指標の推移を継続的に検証しております。

なお、レベル3に区分された金融商品について、それぞれ合理的と考えられる代替的な仮定に変更した場合に、公正価値の金額に重要な変動はないと考えております。

12. 関連当事者

(1) 親会社

住友化学株式会社は、当社グループの親会社であります。

(2) 関連当事者との取引

当社グループと親会社との取引金額及び未決済残高は、以下のとおりであります。

(単位：百万円)

種類	名称	関連当事者 関係の内容	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)		当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	
			取引金額	未決済残高	取引金額	未決済残高
親会社	住友化学 株式会社	資金の貸付 及び回収	△27,678	—	△12,413	13,271

当該取引は、独立第三者間取引と同様の一般的な取引条件で行っております。

13. 後発事象

該当事項はありません。

2 【その他】

2022年10月31日開催の取締役会において、第203期（自 2022年4月1日 至 2023年3月31日）の中間配当（会社法第454条第5項の規定による剰余金の配当）を当社定款第36条第2項の規定に基づき、次のとおり行う旨決議しました。

① 中間配当金の総額	5,562百万円
② 1株当たりの金額	14円00銭
③ 支払請求権の効力発生日及び支払開始日	2022年12月1日

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2023年2月2日

住友ファーマ株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

大阪事務所

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	原	田	大	輔
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	俣	野	広	行
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	立	石	政	人

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている住友ファーマ株式会社の2022年4月1日から2023年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（2022年10月1日から2022年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（2022年4月1日から2022年12月31日まで）に係る要約四半期連結財務諸表、すなわち、要約四半期連結損益計算書、要約四半期連結包括利益計算書、要約四半期連結財政状態計算書、要約四半期連結持分変動計算書、要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び要約四半期連結財務諸表注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の要約四半期連結財務諸表が、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」第93条により規定された国際会計基準第34号「期中財務報告」に準拠して、住友ファーマ株式会社及び連結子会社の2022年12月31日現在の財政状態、同日をもって終了する第3四半期連結会計期間及び第3四半期連結累計期間の経営成績並びに第3四半期連結累計期間のキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「要約四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

要約四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、国際会計基準第34号「期中財務報告」に準拠して要約四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない要約四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

要約四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき要約四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、国際会計基準第1号「財務諸表の表示」第4項に基づき、継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

要約四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から要約四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、要約四半期連結財務諸表において、国際会計基準第1号「財務諸表の表示」第4項に基づき、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において要約四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する要約四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、要約四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・要約四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、国際会計基準第34号「期中財務報告」に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた要約四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに要約四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・要約四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、要約四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記の四半期レビュー報告書の原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれておりません。